

2024年4月19日

2023年度「多摩地域市民活動公募助成」事業実施報告書

団体名 昭島環境フォーラム

代表者・役職名 氏名 代表 長谷川博之

▼報告書の扱い、および記入にあたっての注意点

この報告書(精算報告書以外)は、ホームページなどで公開する予定ですので、広く読まれることを想定してご記入ください。また、編集段階で、表記・表現等を事務局で編集する場合がありますので、あらかじめご了承ください。語尾の表現は「です・ます」調をお願いします。報告書に掲載するため活動の内容がよくわかる写真(2枚程度。写真の肖像権問題がないものの提出をお願い致します)を添付して下さい。

1. 助成プロジェクト名

地域の生物多様性啓発用小冊子の作成、および第5回多摩川流域市民学会の報告書作成と第6回学会の準備

2. 団体の概要(創設の経緯、創設時期=法人で、法人化前に任意団体での活動がある場合、その段階からご記入ください。)

会員数など。180文字程度まで)

2001年に、昭島市の環境基本計画を実行に移すために発足。これまで、昭島市を中心とした東京・多摩地域で、環境保全活動を展開してきた。昭島環境マップVOL1~4を発刊したり、多摩川流域市民学会第1~5回を実施してきた。会員数は現在10名。今後は、環境マップや学会の成果を生かした生物多様性地域戦略の市民版を策定したり、廃校を活用した自然塾での社会教育等に、実践の舞台を移す予定である。

3. プロジェクトの目的とその背景(※応募申請書に記載のものでも可) 250文字程度まで

多摩川流域市民学会は、過去に5回実施してきたが、今回は、「多摩川の水質と水量」をテーマに、河川管理者や大学研究者、市民等が、一同に会して、水質や水量に関する歴史や課題を共有することをねらいとした。昨今の地球温暖化によるゲリラ豪雨の被害やPFAS汚染、外来の藻類の出現等、新しい水量・水質の課題がある一方、下水処理水の水質・水量の問題、羽村堰や小作堰での取水や環境放水の課題、小河内ダムの冷水放流や耐久年数の問題等、歴史的な古い課題に関心が薄らいでいることも、今回、上記のテーマで実施する背景となっている。

4. プロジェクトの内容(※当初予定と変更がない場合は、応募申請書に記載のものでも可) 300文字程度まで

当学会は2年ぶりの開催で、依然コロナ感染がくすぶる中で、オンラインと現地両方でのハイブリッド開催となった。今回は、「水質と水量」に関わる話題が取り上げられ、東京都では初めて、地表水である多摩川でのPFAS汚染が取り上げられた。また、過去の水質研究や水質改善の取り組みや成果も整理された。同時に、まだ、未解決課題や新しい水質課題も紹介され、同時に、歴史的な経緯が背景にあり、あまり語られることの少なかった水利権や水量問題も取り上げられ、整理された。

生物多様性の小冊子は、今後、地域での生物多様性地域戦略の市民版を策定するための準備段階として、8ページにわたる解説と、これまで地域で取り組んできた活動の具体的な成果を生かしつつ、多様性に見える化を目指したマップの作成も行った。

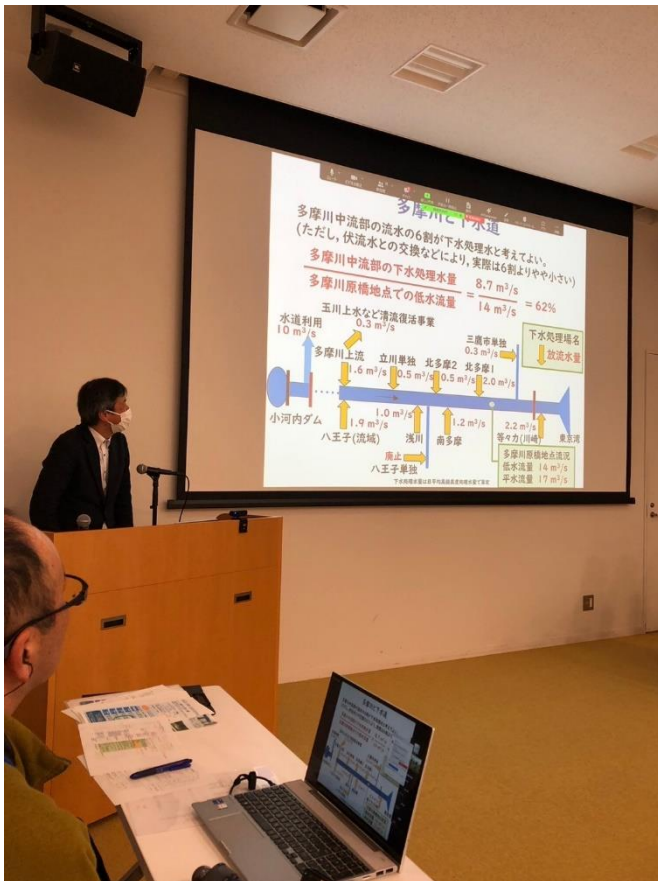
5. プロジェクトの実施で得られた「結果」(OUTPUT。実施回数や参加者数など)、「成果」(OUTCOME。事業によって生まれ

た直接的な変化)、「社会的な変化」(IMPACT。事業が社会に与えた影響)などの『効果』 300文字程度まで

第6回多摩川流域市民学会は、午前中のイベントから、関係者による熱心な化石紹介も行われ、午前中から、熱気を帯びたスタートとなった。基調講演では、東京都では初めて、地表水のPFAS汚染が多摩川を事例に紹介され、今後は、流域の湧水や地下水との関係が、広く意識されて、解明が進むものと期待される。

また、これまでの多摩川の水質研究の諸課題も取り上げられ、改善された側面と同時に、未解決の水質課題も整理された。新しい外来の珪藻問題も紹介され、水質的には改善傾向を示す多摩川にあって、下水処理水の水質や水量も含め、まだ、将来展望をもった改善努力が必要であることを伺わせた。

生物多様性の小冊子は、解説編は、やや難しい内容となったが、多様性の基盤となる生態系サービスの評価を人類の側から見た評価だけでなく、生きものや地球環境からの視点で、オリジナルな評価の視点を導入できたことは、新たな生物多様性の保全のための行動計画にも結びつきやすい成果を生み出したかと考える。





第6回 多摩川流域市民学会

テーマ 多摩川の水質と水量

～多摩川は泳げる川になったか～

～多摩川のアユをおいしく食べられるようになるには～

2024年 2月25日(日)

13～17時

(プレイベントは10:30-11:30)

会場 アキシマエンス

(昭島市郷土資料館教養文化棟)

学会参加費 1,000円(資料代)



プレイベント
10時半～

アキシマクジラ化石の見学と解説
むさしの化石塾代表 福嶋徹

学会プログラム (13時～ 教養文化 (図書館) 棟2階)

基調講演

多摩川・多摩地域におけるPFAS汚染の実態
京都大学准教授 原田浩二

一般発表
1

多摩川における下水処理の現状と課題
東京工科大学教授 浦瀬太郎

一般発表
2

珪藻から見た多摩川の水質の変化と課題
東京学芸大学名誉教授・珪学研究所 真山茂樹

一般発表
3

多摩川における水質課題を総合的に見る
元・東京都環境科学研究所研究員 和波一夫

一般発表
4

多摩川の利水の歴史と水量の課題
多摩川流域市民学会主宰 長谷川博之

オンライン (Zoom) でも配信します
オンライン参加者のみメールで事前の
申し込みと参加費振込が必要です。

問合せ・オンライン申し込み 主催代表 長谷川博之
Email: hasegawa@kzd.biglobe.ne.jp

このイベントは、真如苑の2023年度多摩地域市民活動公募助成を受けて実施します。

